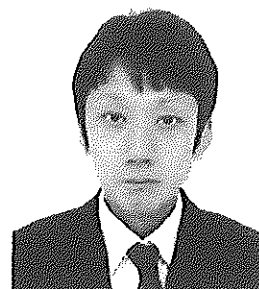


「摂食機能障害の気づきとその対応について」

岡山大学病院スペシャルニーズ歯科センター
山本 昌直 先生



超高齢社会となった現在、摂食機能障害をもつ方が増加してきています。摂食機能障害は誤嚥性肺炎や窒息の原因となり、場合によっては死に直結してしまう恐ろしい疾患です。平成 29 年の主な死因別死亡数の統計（厚生労働省）では、肺炎は 5 位、誤嚥性肺炎は 7 位でした。そしてこの両肺炎を合わせると癌や心疾患に次いで全死因の 3 位の割合を占めていたという状態でした。また、窒息は不慮の事故による死亡数のほぼ 1/4 を占めていました。

施設や在宅においても、「食事が食べにくい」、「食事中にむせる」といった問題を訴える方は少なくありません。加えて、基礎疾患や全身状態の関係で、そのような訴えを伝えることのできない方もいらっしゃいます。これらのような、摂食嚥下機能に問題を抱える方を、誤嚥性肺炎や窒息が起こる前に気づき、医療につなげることが大切だと考えます。そして医療者側も摂食機能障害に対応できるスキルや、専門機関につなげる症例なのかどうかの判断ができるスキルを身につけていくことが求められてきています。

今回の研修会では、摂食機能障害の気づきや評価、対応について講義とワークショップを行う予定です。摂食機能障害は、早期に対応を行うことで肺炎や窒息リスクを下げることができます。楽しい食事を継続できる方が増えるように、皆様と勉強していければと思います。